



農作業メモ

水稲

(1) 水稲種子浸種時の注意点

昨年の高温の影響で、平成24年産水稲種子は、休眠が深く、例年よりも発芽に時間がかかることがあります。十分な浸種日数を確保し、催芽処理を行ってから播種作業を行いましょ。

(2) 「彩のかがやき」栽培指針の変更

① 移植時期

移植の晩限については、食味確保のため従来は6月上旬でしたが、6月20日に延長されました。これよりも移植を遅らせると、登熟期間の気温が登熟適温を下回るため食味の低下が懸念されます。なお、5月移植の場合も、可能な範囲で移植を遅らせましょ。

② 穂肥

葉色が判断の目安となります。

普通栽培では、出穂期前25〜10日に葉色が4以下に落ちた場合に窒素成分で2kg/10a程度施用します。

施用後、出穂期前10日に葉色が4以下の場合には、さらに窒素成分で2kg

表1 作期別追肥について (葉色：群落)

項目	早植栽培	普通栽培	
移植時期	5月末まで	6月1日〜20日まで	
穂肥 (基肥一発肥料の場合も同じ)	葉色確認時期	<ul style="list-style-type: none"> 出穂期前22〜23日頃。 幼穂長1〜2mmに達した時期。 	<ul style="list-style-type: none"> 出穂期前25日頃。 幼穂長0.5〜1mmに達した時期。
	葉色4以下	窒素成分で3kg/10aを限度に施用。	窒素成分で2kg/10a程度施用。
	葉色4以上	葉色が低下するまで施用時期を遅らせ、施用量を窒素成分で2kg/10a程度に減ずる。もし、出穂前10日になっても4以上の場合は追肥は行わない。	葉色が低下するまで施用時期を遅らせる。もし、出穂前10日になっても4以上の場合は追肥は行わない。
	追加施用の葉色確認時期	出穂前10日	
	葉色4以下	2kg/10a程度施用する。	
	葉色4以上	施用しない。	

／10a程度追加施用します(表1)。また、基肥一発肥料の場合であっても、(早植・普通栽培の)葉色確認時期に葉色が4以下となった場合は、追肥を実施しましょ。

麦類の赤かび病防除

赤かび病被害粒がわずかでも混入すると、農産物検査に合格しません。必ず薬剤による予防防除を実施して下さい。

小麦では、出穂7〜10日後を目安に、開花が始まったことを確認してから散布します。防除後に降雨が続く場合に、開花20日後を目安に、追加散布をします。

六条大麦では、穂揃期を目安に散布し、降雨が続く場合は、開花10日後に追加散布をします。特に「すずかぜ」は抵抗性が弱いので、防除を徹底します。

二条大麦では、穂揃期の10日後を目安に散布します。

個人で行う地上防除の際には、トップジンM水和剤やシルバキュアフロアブル等の赤かび病に登録のある薬剤で、防除を行いましょ(表2)。

表2 麦類赤かび病防除薬剤例

薬剤名	使用時期	使用回数
トップジンM 水和剤	【小麦】 収穫14日前まで	出穂期以降2回以内 (総使用回数3回以内)
	【麦類】 収穫30日前まで (小麦を除く)	出穂期以降1回以内 (総使用回数3回以内)
シルバキュア フロアブル	【小麦】 収穫7日前まで	2回以内
	【大麦】 収穫14日前まで	2回以内

【JPP-NET 2013/3/1 現在の登録情報】

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認し、散布時は周辺への飛散に注意しましょ。
(大里農林振興センター農業支援部)